

令和5年度 第1回 魚津市地域包括支援センター運営協議会
会議録

1. 日 時 令和6年2月28日(水) 午後7時から午後8時20分
2. 場 所 市役所第1会議室
3. 出席者 委員9名 事務局8名
4. 議事等 (1)魚津市地域包括支援センターの運営について【資料1】～【資料3】
(2)令和4年度事業報告及び令和5年度の取組について【資料4】
(3)令和6年度 事業計画(案)について【資料5】
(4)会計報告【資料6】

【議事と質疑、その他意見】

会長	<p>元日から地震という大きな災害がありましたけれども、公共施設が動いていなかったというのも大きな状況です。おそらく伝達もなかなかうまくいかなかったのではないかと思います。逆に家族単位で動いていたというのは良かったというところはありませんが、避難する際に、高台に逃げることに時間がかかってやっと避難場所にたどり着いたということが、本当の津波が来たら危ない状況であるかなと思います。</p> <p>私の患者もそうですけれども、足の悪い方は車で動かざるを得なかったというところがありました。そういうところを把握することが、災害が起こった時に非常に大きな役割を持つことになると思う。</p> <p>ぜひ皆さん、ご意見いただければと思います。</p>
委員	<p>まさか、ここではそんなに大きなものはないと思っていた。それから津波警報と言っていたんですが、ちょうどその時、診察をしている最中で、患者さんと2人で身動きが取れないというか、積極的に何も動くことができなかった状態でした。</p> <p>そこで後日、いろんな方々に診察の時、お聞きしましたが、車で避難した人は動けなかったと。小学校の2階や3階に上がって避難したとか、そのような話が、たくさん出てきました。入る前にみんな群衆のようになって、普通ならさっさと入れる出入り口が、なかなか入れない状態。</p> <p>高い方へ逃げろという中で、垂直避難という言い方をされていましたが、そういうことをもっと市民の皆さんにも、アピールしていくことも重要なのかなと感じておりました。</p>
委員	<p>災害時の個別支援計画が立てられていますけど、結局は全然役に立たなかったというのが実情です。地震の後、高齢者宅を訪問して、次にこういうことが起こった場合にどういう風な行動をしたいかをお尋ねしたら、ほとんどの高齢者の方は、このまま垂直避難しますと答えられました。</p>

	<p>足が都合悪いとか、体の都合が悪い高齢者の方が多いので、垂直避難ということ を1番の念頭に置いておられますし、大町地区は特に高齢化率50パーセントを超え ていますので、隣近所で助け合うことがほぼ不可能に近い状態になっております。</p> <p>包括支援センターは、高齢の方にとって本当に頼りなるところだと思っております て、皆さん一生懸命していただいて、すごく頼りにしているのですけれども、その活 動の多さは年々増えています。人員が足りているのかという問題がすごくあるのと 生活支援コーディネーターの方のなり手の確保も大切かなと。職員の数を増やすの ももちろんですけど、支援する方がもっと必要かなと思っております。</p>
委員	<p>この会議の最初の段階から人員の問題はずっと続いています。特に外部から の参加とか、協力者っていうのは非常に大事な役割を持っています。育成するシステ ムはどのような感じですか。</p>
事務局	<p>人材不足に苦慮しているのは、包括支援センターも同様でございます。</p> <p>魚津市は、直営で包括支援センターを運営させていただいておりますが、外部の 居宅さんからもご協力を得て、ケアマネジャーの派遣に協力いただいているところ ですが、派遣くださっている法人も、なかなか思うように人材の確保が進んでない という状況でございます。それは、ケアマネジャーのなり手も増えてない、それから、 高齢化している状況の中で、それぞれの法人の運営そのものもしっかりしなければ いけないというところで、包括としても無理を言えないような状況になってきてお ります。</p> <p>昨日も県の方で介護の人材不足とか確保に関する会議がございました。その中で 発言させていただいたのですが、例えば主任ケアマネやケアマネの試験、資格を取 るのに非常に労力を有している、そしてまた更新が来るところで、そういった ところに時間がかかったりハードルがあって、法人も包括も非常に苦労している ところを、ぜひ切実な声として、県なり国へどんどん上げていただいて、そうい うところを緩和していただいたりすることで運営もしやすくなったりとか、ケアマネ ジャーのなり手を募集していく。それから介護人材を増やしていく、そういう取組も 合わせて、国をあげて動いていただきたいということを他の保険者もおっしゃって おられました。</p> <p>色々苦慮していますが、なんとか今やらせていただいております。マンパワーが十分 かという、これが能登のような地震が魚津市で起きたならば、ということを考えて と、どうだったのかというのは、非常に心配な点があるとは思っております。</p> <p>人材確保については、引き続き人事当局とも交渉しながら適切に配置いただける ように、努力はしていくのですが、これはまず国全体の課題なのかなという風にも感 じております。</p>
委員	<p>これは日本全国の問題ではあるのですが、敷居を高くしすぎている面もあるとは 思うので、ぜひ皆さんの声を上げていただければと思います。</p>

委員	<p>人材について、包括支援センターのスタッフが足りていないという認識ですか。</p>
事務局	<p>現在は足りてはいます。ただ、1人当たりの受け持ちの件数が、増えていたり、過重になっていたり、ベテランの方もいらっしゃる、新規採用になった職員とかキャリアが短い者に対しては、たくさんの件数を扱うことができなかつたりします。</p> <p>そういった職員の指導というところもございますので、基準は満たしているのですが、果たして潤沢にやれるかと言われると、冒頭に部長が申したように、今、包括に寄せられる相談というのは非常に複雑多様化しております。同じ人数がいたとしても、これまでよりもどんどん1人の相談にかかる時間は長くなっているという状況もございます。それはおそらく外部の居宅も同じではないかという風に考えておりますので、その基準を満たしていると言ったとしても、その基準の中できちんと、例えば極端な話、時間外勤務をしないで、正規の時間の中で仕事をこなせているかと言うとどうだろうか、というところがございます。基準を満たしているとはいうものの、職員の負担感は非常に増えているのではないかと、ということを危惧しております。</p>
委員	<p>昔、私どもの法人からも、1人出していた時期もあったのですが、退職とかの事情でお断りして何年も経っています。現状は変わっていないですが、今度の報酬改定で、ケアマネジャーが持てる上限が緩和されるような話も聞いています。</p> <p>今まで要支援の方のプランは余裕がないとお断りしていたのですが、報酬が増えて協力できることもあるのかなと思ったりもして、どれだけ不足なのかとか、お互いに情報交換したら事業所として協力できることもあるかと思えます。</p> <p>次に、この資料2で市役所の方が、介護予防の事業とか一生懸命考えられて、私どもの方に委託をいただいたりして、一生懸命されていることをすごく感じているのですが、この資料を見ると、介護予防ケアマネジメントとか介護支援の事業に関しては、40パーセントと点数が悪くなっていて、全国、県も100に近いですが、魚津市は40みたいな。よく見ると、バツかマルかしか答えがないので、バツになると、いきなり0点になるのでしょうかないのかもしれないですけど、バツがついているところの何がダメだと思っていらっしゃるのかわからないので、解説をいただけるとありがたいです。バツがつくとは決して思っていないので。</p>
事務局	<p>特に介護予防ケアマネジメントの部分がとても低くなっており、この設問が5つしかなく、半分できないとそれが低くなっている。この中で、このセルフマネジメントはまだ難しいかと思うのですが、その他の2つに関しては、こういったもの、この方針でいいのか、その他の別の方針が必要なのか、また確認して委託事業所にお示しできれば、ここもマルになるかと思っております。また、他の市町村がどのような方針に示しておられるのか確認して、マルになるように取り組んでいきたいと思っています。</p>

	資料4・5 説明
委員	認知の事業の話で、賠償責任保険が新たにということになりましたが、SOSネットワークに入っていないと対象にはならないということになりますか。
事務局	原則として、SOSネットワーク事業に登録の方にシールと保険の加入ができるという形になります。
委員	ということは、かなり限定されていますか。今どれくらいいらっしゃるんですか。
事務局	SOSに登録されている方、90名余りの方に、制度のご案内と加入の確認を行っているところです。また、新規については随時受付を行います。
委員	認知症の方、動ける人だけではなく、物を壊したりということは十分あり得るし、本人が事故に遭うということも当然起こってくるので、なるべくなら、広げてもらいたいというのが本音かと思ったのですが。
委員	うちの父もパトカーで帰ってきました。それで、別便でシニアカーが送られてきました。動ける人も昔だったら徘徊していくということですが、今の人の場合は、シニアカーでいつもと違う方向に行き、どこかのコンビニで警察に連絡してということになったのですが、いつも車の中には名前とか連絡先は出ているのですが、本人さんがこんなものいらないと言って、取ってしまうという話をお聞きました。 この保険は、本人負担がないとのことですから、どんどん利用してもらえれば、万が一あった時にはいいと思っております。
事務局	こちらの保険も、令和6年の3月から加入できるような状態で、市のホームページや広報でお知らせしたいと思っております。
委員	なかなか自己責任を取れるような人が多くないので、SOSネットワークに登録することに敷居が高い可能性があるかと思い、気にはなっています。PRが弱いところがちょっとあるので、そこら辺はぜひ。
委員	後見制度の方は少し緩和され、入ったり出たりできるようにするようではあります。が、まだ敷居が高いです。柔軟に本人の裁量が少し残るような形のものが作られるといいのですが、使いやすいと言われると難しいです。実際に関わっている方々で、問題と感じたことはないでしょうか。
委員	SOSネットワーク事業に入ると言った人は、実際に行方不明になって一晩帰って来られなくて、やっとお帰りになったということもありまして、やはり実際に起こら

	ないとなかなか入れない、入っていただけないという事例がありましたので、敷居が少し高いのかな。でも、施設側は進めていきたいと思っております。
委員	事業の名前を工夫してもいいのかもしれない。SOSネットワークというのがもしかしたら悪いイメージを持たせる可能性はありますので。
事務局	この事業については、ケアマネ部会にもお知らせしたいと思います。実際、SOSに登録されて、協力事業者の皆さんにお知らせする件数は、令和5年度に関しては1件で、令和4年度に関しては、事例がなかった。多分、警察とか、いろんな近所の方で事前に見つかっているのではという感じです。
委員	高齢の方、軽い方でも違う場所に行ってしまうと混乱して戻れなくなっていくことが当然起こるので、普段きちんとやれている方でも、起こる事例でもあります。どんどん加入してもらおうのがいいのではないかと思います。
	資料6 会計報告
委員	国が絞ったもので、自治体が大変な目にあうという状況になりつつありますが、自治体ということは、税金、保険料が値上がりせざるを得ないですか。
事務局	向こう3年間の見込みで、議会3月定例会に介護保険料の改定の議案を出させていただいております。結論は最終日に議決いただかないと確定しないのですが、現段階では基準額と呼ばれる金額につきましては、月あたりの保険料にしますと、これまでよりも200円お安くして保険料を設定させていただいております。微々たるものかもしれませんが、年額にしますと、2400円マイナスというところで、あとは、今年度まで12段階の保険料の区分を設けておりましたが、国がその基準の段階を13段階に来年度からする予定で、本市におきましても、13段階の区分を設ける予定とさせていただいております。 正式に決まりましたら、保険料の改定という形でお知らせはあるかと思います。
委員	他の自治体が、非常に苦しい財政でやっているところ、多分、魚津市はここまで頑張ってきた分が今余裕を持たせてくれているのだと思うので。皆さん、お疲れ様です。ありがとうございます。
委員	今の国の方針は、若い人への支援が手厚いですが、そうでなくなった人たち、それの中に入りつつある人に支援というよりも、むしり取られているという感覚が非常に強い。仕事をしていけば一生懸命すればするほど税金が増えるという。 13段階で、この1段階に来るのが、上の方がもっとアップするってことになって、しょうがないですけど、国も子育て支援に非常に手厚いのは分かるのですが。

委員	<p>同じ意見ですけど、やむを得ないということは分かります。高齢化社会で、高齢者がある程度頑張ってお金を払ってくださということとは分かりますが、国の施策としては、介護保険失敗しているなというところがあります。</p> <p>在宅で見てくださということだったので、多分、働く世代がそこに手を取られている面があると思う。あと5年、10年すると、また大きく変えるのではないかという感じはありますが。でも、そこをみんなで生き抜いていかないといけないので、そこは頑張らざるを得ないのです。</p>
委員	<p>介護保険の自己負担が2割になるという話が出ますけれど、これは本当に介護サービスを利用できなくなる人が出てくるのではないかという心配をしていますが、これは決定ですか。</p>
事務局	<p>何度か社会保障審議会の協議の場には上がっていますが、その度に、その直前に医療費負担が2割にならなかったことに非常に反発もございまして、1回見送りになり、半年ぐらい先にまたさらにということで、まだ、結論は出ておりません。</p> <p>早かれ遅かれまた、その議論が湧いてきてということは考えられますが、今のところ、いつからとはなっていないです。</p>
委員	<p>包括支援センターの運営の方針ということなので、社会福祉協議会もいろいろなインフォーマルなサービスだったり、住民の方を巻き込みながら、この高齢者支援というところを考えていく中では、認知症の話も出てきたり、成年後見の話も出てきたりと、包括さんの抱えていらっしゃる課題をもう少し聞かせてもらいながら、普段やり取りはさせていただいていますが、例えば令和6年度はこれを少しみんなで力を入れていこうみたいなものがあれば、私たちも地域住民の方々と一緒に地域ケア会議というような場を作ったりしているので、いろんな課題はたくさんあって幅広いものですから、地域の中でもどんなことを進めていこうかと、地域独自の課題感を持って進めているところもあるんですが、市全体として取組を強めていこうというものがあれば、今後、そういうものを事業計画の中に落とししていくとか、地域ケア会議ではこんなことを今年は1回ずつ取り組みましょうみたいなご提案もできるのではないかなと思います。</p> <p>今までなかったわけではないですが、改めてそういうことが大事だと思いました。</p>
事務局	<p>重点項目ですが、あえて申し上げますとすれば、やはり認知症基本法が施行されたということで、魚津市は認知症の施策について、若干弱いというところがございます。ニーズの方も十分に捉えきれてないということもございまして、どんな施策が効果的か掴みきれてない部分もございます。</p> <p>そういったことを、地域の中で社協さんの中で話題にさせていただいて、声を拾い上げていきながら施策に生かすことができれば大変ありがたいと思っております。</p>

	<p>それと、重層的支援体制整備事業を、6年度、移行準備事業と言いまして、本格的に実施する前の準備段階ということで縦割りの障害とか高齢とかの垣根をはらった支援体制を整備していく、そして、複雑化、複合化したものに対する支援体制を整備するという、国の社会福祉法の改正に伴った事業でございますけれど、それに、いよいよ取り組もうということで、これも地域の皆さん、社協や関係機関としっかりと連携を取りながら進めていかなければならないので、是非とも皆さん方の協力もお願いしたいと思っています。</p>
委員	<p>包括支援センターの方々には、常日頃からすごくご協力いただいて、お力添えいただきながらやらせていただいていると心から感謝しています。</p> <p>一緒にケア会議や労災病院さんとの連携した研修で、いろいろ一緒に学ばせていただいて、成長させていただいていると感じています。今後も一緒に少しでも地域のお役に立てるように、ご協力していただければと思っています。</p> <p>今、要支援の方がかなり増えてきている、認定が出ている方が多いというところがあり、今の包括支援センターのマンパワーで、これだけの数を担当しておられるのはかなりご負担だろうと、委託を受けている一事業所としては協力できることは協力していきたいと思っています。お力になれることがあれば、お声がけいただきたいと思っています。</p> <p>ケアマネジャーとして今感じているのが、包括支援センターで予防に力を入れていただいているところで、健康に対する意識の高い方が増えているのではと。介護にならないために、サンプラザの3階に行っておこう、地域の百歳体操などに行こうと思ったださっている方、健康意識が高くなっていると。担当している方の奥さんが、私は主人みたいになりたくないから、頑張っていくわ、みたいな。息抜きがてら、健康体操に行かれたり、小さな活動を大事にしてくださっているのが、健康寿命を延ばす一助になっているというのをすごく感じています。</p> <p>私がケアにあった頃と比べると、いろんな事業を開拓して、新しく作ってやったださっているというのはすごく感謝しているし、それがきちんと結果として出てきているというのをすごく感じているので、この場をお借りしてまた感謝申し上げたいと思います。</p>
委員	<p>要支援が増えるのは多分悪いことじゃないです。特に支援1あたりが増えているのは、それは正しいのではないかと考えております。どんどんそういう事業に参加してもらえるのが1番いいです。本当に元気な方ってというのは、ちょっと逆に心配ではあります。</p>
委員	<p>要支援の方がどんどん増えているということが話題になっております。前からそのような傾向は、あったわけですが、今回の医療費と介護保険の改定実施は、10月からという話ですけれども、中でも、例えば今までの糖尿病と高血圧症と脂質異常症</p>

	<p>というのは、病気の中での慢性疾患という、主流としているところに位置づけられておりました。その主流から外されました。今回は安くはなるわけです、</p> <p>もう一つは、それぞれの疾患の皆さんの意識付けが相当上がってきているので、例えば今度はスマホでそういうアプリを入れて、それを連動して医療に結びつけるところが10月からスタートします。それに対応しているアプリはまだ1メーカーしか出ていませんけども、10月にはいくつかの有名なメーカーから出てくる予定なので、フレイルに近いところのもう一つ前、予防しようという国のメインの流れというのは、もうなってしまった人も、もう一度、前、前の前から予防しようという方向に今かかってきていますので、この支援というのはもっともっとニーズが多いと思うのです。先ほど、今マンパワーはなんとかやっています、という優等生的なお答えがありました。けれども、やっぱりそれは、あるハイレベルな人たちの量、そのマストの内容をこなせるようなところに早く皆さんで、そのためには人数ももっと必要なので、マンパワーは足りてますという言い方は、もっと欲しいですということで、予算をつけないとまたつけませんし、どれだけDXがどうのと言っても、最終的にやるのは人間ですから、ケアマネジャーさんの人数なりレベルをもっと上げていくとか、人数を増やしていくことが非常に重要になるんじゃないかと僕は思っていますので、人員の確保ということも具体的にはそういうことですね。</p>
<p>会長</p>	<p>もし皆さんのご意見が、一致するものであれば、今現在定員は足りているけれど、これから先を考えると、定員がもっと増える必要があるということは多分議題として載せていいと思うのでよろしいですか。そういう風に意見を追加したいと思いますがよろしいでしょうか。</p>

以上